

本会誌は、物理教育に関する研究や意見を会員が発表する場として活用されること、物理教育を実施する上で有益な情報を会員に提供する場であることを目的としています。編集委員会では、この目的をより一層推進するために、本会誌の編集方針を具体的に文章化して会員の皆様にお示しすることにいたしました。この編集方針は従来から本会誌が掲げてきたものと基本的には変わりありませんが、投稿原稿の採否の判定基準などを明示することで、会誌の内容がより充実し、会員にとって有用なものとなることを期待しています。

## 「物理教育」の編集方針

1. (掲載記事の性格と分類) 日本物理教育学会の会誌である「物理教育」の掲載記事は、①学術的な研究および実践の報告(以下では学術記事と記す:投稿種別 A)と本誌に掲載された学術記事に対するコメント(投稿種別 C)、②読者間の情報交換・交流を目的とする記事(投稿種別 B)、および③学会活動の報告その他の学会員への情報を提供する記事とからなる。①については数名による査読を行い、②については(新規性や高度な学術性よりも)読者の関心や日々の授業への関連性を重視しての閲読を行う。①、②いずれについても査読、閲読結果に基づき、編集委員会で総合的に判断して採否を決定する。以下の記述は、①の学術的な研究および実践の報告に関わるものである。
2. (編集委員会)「物理教育」は、物理の教員、物理教育の研究者、および物理教育や物理教育研究を志す学生にとって有用で、これら読者の知的な関心に合致する学術記事の投稿を査読審査して編集委員会が採録に適切と判断したものを掲載する。信頼性があり、読者の関心に合致し、読者にとって有用な投稿を選択して採録する責任は編集委員会にある。
3. (審査の公平性) 採否の審査は公正・公平に行われなければならない。しかし、投稿者は採録を要求する権利を有するわけではない。
4. (採否の判断基準) 投稿原稿の採否には次の点が重要な判断基準となる。
  - ・記述内容に誤りが無く、信頼のおけるものである。
  - ・内容や手法に新規性がある。
  - ・主張が明快に表現されている。
  - ・読者の関心に合致することが期待でき、有用である。編集委員会は、採否に迷うところがある場合には、投稿者側ではなく、読者側の観点に立って判断する。
5. (望ましい投稿原稿) 物理教育が対象とする物理および物理教育の領域は極めて広い。従って、個々の原稿のテーマは、読者の多くにとっては自分の直接の専門領域の外にある。投稿者は、この事情を念頭に置いて、多くの読者が理解できるように記述することが求められる。すなわち、研究の背景や取り上げるテーマに関連した最近の研究動向、得られた結果の意義などをわかりやすく説明することが望まれる。ただし、後述の「コメント」についてはむしろ論点を絞った簡潔な記述が求められる。
6. (先行文献の引用の責任) 投稿原稿は、報告するテーマ内容についての先行文献を著者の責任において調査し、適切に引用しなければならない。編集委員会および査読者には、先行文献を検索調査する義務はない。
7. (本誌に掲載された学術記事への批判などの投稿の扱い) 本会誌に掲載された学術記事に対する批判やこれに対する反論は、編集委員会が審査して、論点が明確で内容的に重要と認めた場合には掲載する。掲載記事に対する批判の投稿は、論点を明確に絞った「コメント」の形式で投稿することを原則とする。ただし、「コメント」の形式で投稿されたか否かにかかわらず、掲載記事に対する批判を主眼とする投稿であると編集委員会が判断した投稿は、必要に応じて「コメント」の形式にふさわしい書き直しを求めた上で、「コメント」として審査する。

以上